

# 今月聴いた CD&DVD

## シモーネ・ディナースタインの「バッハ・アルバム」と「ゴルトベルク変奏曲」

◎金子建志

今月は米国のピアノリスト、シモーネ・ディナースタインによる「バッハ・アルバム」を取り上げてみたい。ソロとしては「イギリス組曲第3番」ト短調BWV808、ピアノ編曲版の「コラール（主イエス・キリストよ、われ汝に呼ばわる）」BWV639「ブゾーニ編」、（確かにその時は来れり）BWV307「ケンブ編」、（主よ、人の望みの喜びよ）BWV147「マイラ・ヘス編」、そして協奏曲が2曲、（第1番）二短調BWV1052と（第5番）ヘ短調BWV1056が収録されている。

この選曲は「カラヤン・アダージヨ」を連想させる。「バッハ・名旋律集」若しくは「バッハ・カンタービレ」といったイメージが浮かび上がった。協奏曲（第5番）

の第2楽章は複数の転用でも知られる長調の名曲で、グールドは映画「スローターズ5」で用いている。（第1番）の第2楽章は短調で、これはヴィヴァルディやアルビノーニが協奏曲の中間楽章としてエレジックな緩徐楽章を書いた場合と同じパターンで、その纏綿たる嘆きは、「イタリア協奏曲」の第2楽章と同じ系譜に属する。「イギリス組曲第3番」の「アルマンド」は、同種のラメントソだし、テンポは中庸だが「ガヴォット」もメロディアスなナンバーとして知られている。

この選曲からも、ディナースタインが歌謡性を最優先する人なのは明らかだが、実際の演奏も、その嗜好がそのまま反映され、「歌」に満ちた演奏になっている。但し、彼女の

後、ダ・カーポして冒頭から8小節をオクターヴ上げて弾き、いわばコーダを付け加えた形で、締め括る。こういったタイプのアレンジに近い行為は、それなりに面白くはあるものの、演奏家としての感性を測るリトマス試験紙にはなり得ない、というのが筆者の見解なのだが、ディナースタインは、こうしたエリアには踏み込むことなく、装飾音の処理や、反復の際の変化といった範疇の中で、勝負している。

「歌」としての息の長い旋律線を重視した、いかにもディナースタインらしい演奏で、ポリフォニックな絡みが立体的な刺激として表出することを意識的に抑えたかのような印象を受ける。低音部と和声進行に「核」を潜ませた30ものモンスター変奏曲の主題というよりは、「マグダレーナ・バッハの音楽帳」に書かれていた原曲を、受難曲の中におけるアリアに近い、祈りの曲として歌った演奏というべきか。

反復を採用した例外もある）、リピートをする場合は、ダ・カーポ形式のアリアを演奏する場合のように、装飾音やデュナミックに変化を付けて、A1・A2・B1・B2のように変化を加えるのが一般的である。

しかし、このアルペジオの上下選択よりも驚かされるのは、全体を、極限的なピアノシモで通していること。そこだけを聴くと、幾分、あざとい印象を受けなくもないが、緩急の変化を大きく付け、歌のデリカシーにこだわった30の変奏を聴き終えた後のエピソードとして聴くと、納得がいく。例えば、第22変奏のアラ・ブレーヴェをエレジーのように弾いた例は少ない。特に、後半部の短調になるあたりは受難曲のアリアのようなだ。オルゴールや手回しオルガンのないイメージで弾かれることが多い第28変奏を、高速度カメラの超微速前進で弾いた意図ともリンクする。

（ゴルトベルク変奏曲）は全ての曲がA/Bの二部形式で書かれている。グールドのように基本的に反復抜きの人もあるが（81年盤の第27変奏のようにAABのバール形式的な

の11小節を下降型で弾くことも、ランドフスカが2種の録音で実践していたが、バッハは、ここで、そうした上下行を書き分けることはしていないので、下降型を継承したグールド同様、演奏段階での選択というこ

閉鎖空間での自己陶酔的な感情表出とは無縁。油絵よりは水彩画に近く、繊細で透明度が高いため、爽やかな印象を残す。

は、指が実に軽やかに廻るのほもちろんのこと、デュナミックの変化が素晴らしく柔軟で、あたかも清流が鮎が素早く泳ぎ廻っているようなイメージを与える。



★シモーネ・ディナースタイン／プレイス・バッハ【コラール「主イエス・キリストよ、われ汝に呼ばれる」BWV639（ブゾーニ編）、クラヴィーア協奏曲第5番ヘ短調BWV1056、コラール「今ぞ喜べ、愛するキリスト者の仲間たちよ」BWV734（ケンブ編）、イギリス組曲第3番ト短調BWV808、クラヴィーア協奏曲第1番二短調BWV1052、コラール「主よ、人の望みの喜びよ」BWV147（ヘス編）、平均律クラヴィーア曲集第2巻～前奏曲とフーガ第2番ハ短調BWV871（日本盤のみのボーナストラック）】ディナースタイン（P）、ベルリン国立歌劇場室内管弦楽団 [10] ソニークラシカル—SICC1443 2,520円

★編集部より：この連載は、全てのジャンルの新譜から金子建志さんが選ぶベストレコーダーだ。